

第2期

久留米広域連携中枢都市圏ビジョン

久留米市／大川市／小郡市／うきは市／大刀洗町／大木町



第1章 はじめに

1. 策定の趣旨	4
2. 連携中枢都市圏の名称及び構成自治体	4
(1) 連携中枢都市圏の名称	4
(2) 連携中枢都市圏の構成自治体	4
3. ビジョンの計画期間	4

第2章 圏域の現状

1. 圏域の概要	5
2. 圏域の人口	9
(1) 総人口	9
(2) 人口構成	10
(3) 人口動態	10
(4) 外国人住民数の推移	11
3. 経済・産業の動向	12
(1) 圏域総生産額	12
(2) 産業大分類別の産業構造	13
(3) 農業	14
(4) 商業（卸売業・小売業）	15
(5) 製造業	16
(6) 観光	17
4. 都市機能	18
(1) 高等教育機関・研究機関・産業支援機関	18
(2) 文化・観光施設等	19
5. 生活機能	20
(1) 医療	20
(2) 子育て支援	22
(3) 公共交通	24
6. 第1期ビジョンの成果と課題	25
(1) 目標人口をふまえた評価	25
(2) KPI（成果指標）の達成状況と評価、課題	26
7. 圏域を取り巻く環境	29
(1) 新型コロナウイルス感染症の影響	29
(2) デジタル化とDXの加速	29
(3) 脱炭素社会に向けた取組の加速	30
(4) 自然災害の激甚化・頻発化	30

第3章 圏域が目指す将来像

1. 圏域が目指す将来像	31
2. 人口展望	32
(1) 圏域の将来人口	32
(2) 人口構成の展望	32

第4章 将来像の実現に向けて

1. 将来像の実現に向けた方策	33
(1) 施策の設定	33
(2) SDGsとの連動	33
(3) KPIの設定	34
(4) ビジョンの推進体制	35
2. 事業体系	36
3. 具体的取組	37
(1) 圏域全体の経済成長のけん引	37
・産学金官民が一体となった	
圏域の経済成長等の推進体制の整備	37
・地域資源を活用した地域経済の裾野拡大	38
・地域産業の育成	40
・戦略的な観光の推進	41
(2) 高次の都市機能の集積・強化	42
・圏域全体の賑わいづくり	42
・データ連携による効率的な医療体制の構築	43
・文化芸術に触れる機会の提供	43
(3) 生活関連機能サービスの向上	45
(生活機能の強化)	45
・地域医療	45
・子育て支援	46
・地域振興	48
(結びつきやネットワークの強化)	50
・地域公共交通	50
・地域内外の住民との交流・移住促進	51
(圏域マネジメント能力の強化)	51
・効率的な行財政の運営及び人材の育成・確保	53

参考資料

久留米広域連携中枢都市圏推進協議会設置要綱	56
久留米広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱	58
久留米広域連携中枢都市圏のこれまでのあゆみ	59
用語解説	60

第1章 はじめに

1. 策定の趣旨

人口減少と少子高齢化が進む中であっても、経済を持続可能なものとし、住民が安心して暮らしていくためには、多彩な特色を活かしてそれぞれの自治体が魅力を磨き続けるとともに、密接なつながりの中で相互に連携し、地域全体の活力を生み出していくことが重要です。

久留米広域連携中枢都市圏ビジョン（以下、「ビジョン」といいます。）は、古くからの強い結びつきのもと、経済圏や生活圏を共有する久留米市と大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町が、「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」の3つの分野で連携し、第1期ビジョン（平成28年度～令和3年度）に引き続き、地方から大都市圏への人口流出を食い止め、大都市圏から地方への人の流れを創出し、魅力ある圏域を創造していくために、目指すべき将来像とその実現に向けた取組みを示すものです。

2. 連携中枢都市圏の名称及び構成自治体

（1）連携中枢都市圏の名称

久留米広域連携中枢都市圏

（2）連携中枢都市圏の構成自治体

連携中枢都市：久留米市

連携市町：大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町

3. ビジョンの計画期間

令和4年度から令和7年度までの4年間

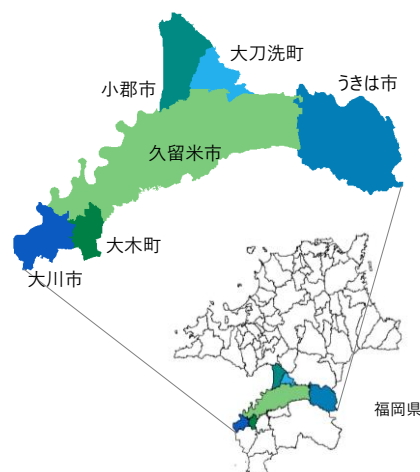
第2章 圏域の現状

1. 圏域の概要

本圏域は、福岡県南部に位置し、東西49.7km、南北30.6km、総面積467.83 k m²の東西に長い「山字」形の地勢をなしています。また、阿蘇外輪山を水源に有明海へと注ぐ九州一の大河、筑後川の中・下流域に位置しており、筑後川の豊かな恩恵を受けた筑後平野は、県内最大の農業生産地となっています。

九州自動車道や大分・長崎自動車道、国道幹線道路の道路網と、九州新幹線やJR在来線、西鉄、甘木鉄道の鉄道網、福岡空港や佐賀空港へのアクセスの良さなど、現在も交通環境に恵まれたこの地域は、古くから、九州における交通の要衝として人と物資が行き交い、商業、工業、伝統工芸など、多様な産業が根付き地域経済を支えてきました。現在では、バイオや自動車関連産業などの新たな産業の集積も進んでいます。また、東洋のエジソンと云われた田中久重や近代洋画家の青木繁や坂本繁二郎、数々の名曲を残した古賀政男など、数多くの文化人をこの圏域から輩出するとともに、医療・教育機関も充実しています。

本圏域の4市2町は、これらの地域資源を活かしながら、筑後川水系の恵みを共にした古くからの強いつながりを今に引き継ぎ、名実ともに福岡県南部地域の経済・文化の中心地域として発展を続けています。

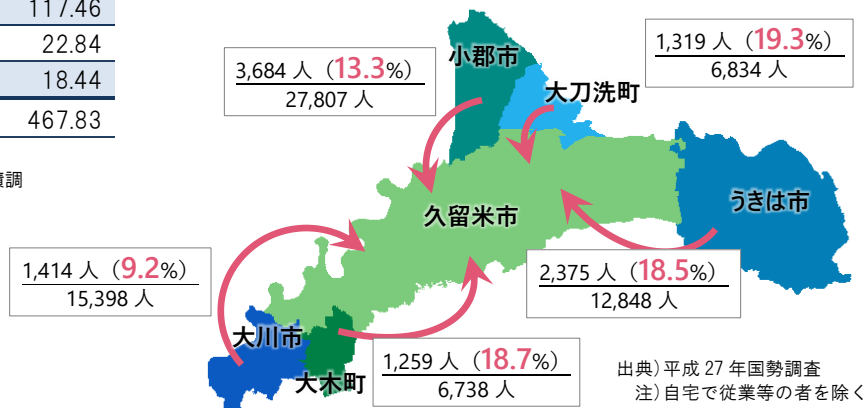


	人口(人)	面積 (km ²)
久留米市	303,316	229.96
大川市	32,988	33.62
小郡市	59,360	45.51
うきは市	27,981	117.46
大刀洗町	15,521	22.84
大木町	13,820	18.44
計	452,986	467.83

出典) 令和2年国勢調査及び
全国都道府県市区町村別面積調

連携市町から久留米市への通勤・通学状況

久留米市への通勤通学者
常住する15歳以上の就業者・通学者



久留米市

水と緑の人間都市



九州一の大河・筑後川と緑豊かな耳納連山に育まれた肥沃な大地と温暖な気候に恵まれた、自然豊かな美しい都市です。九州における交通の要衝に位置し、古くから県南地域の経済・文化の中心都市として栄えてきました。

産業面では、絣やゴム産業など、ものづくりの街として発展し、ブリヂストンやムーンスターなどの発祥の地としても有名で、現在は自動車

関連産業も集積しています。また、全国トップレベルの医師数と医療機関が集積する高度医療都市であり、バイオ産業の集積も進んでいます。さらに、九州有数の農業産出額を誇る県内最大の農業生産都市であり、多種多様な農業が営まれています。また、伝統的な郷土料理や日本三大酒処を誇る銘酒、「久留米ラーメン」や「久留米焼きとり」といったB級グルメなど、多彩な食文化を有しています。

一方、文化芸術面では、洋画家や音楽家など多彩で有名な人材を多数輩出するとともに、市民の文化芸術活動も盛んです。こうした文化芸術の豊かな土壌を基盤として、平成28年4月には文化・交流施設「久留米シティプラザ」が開館し、心豊かな市民生活や広域的な求心力づくり、賑わい創出に取り組んでいます。

[人][創造・共生・共創] ～ずっと大川 ずーっと大川～

大川市

大川市は、県南西部に広がる穀倉地帯、筑紫平野のほぼ中央にあたり、九州最大の大河・筑紫次郎こと筑後川が有明海に注ぐ河口左岸に位置しています。

基幹産業であるインテリア産業には、480年有余の歴史と伝統に培われた確かな技術とそれらに基づく優れた木製品があり、近年では伝統の建具技法である大川組子が注目を集めています。また、恵まれた自然のもと発展してきた農水産業では、稲作を中心に小麦やイ草、イチゴ（あまおう）などの生産が盛んで、豊潤な有明海で採れるノリ（福岡有明のり）とともに、高い品質を誇っています。

これからもすべての人が住み続けたい、何度も訪れたい、働きたい、学びたいと思え、「ずっと大川 ずーっと大川」を感じられる大川市を目指して、魅力あるまちづくりに取り組んでいます。



小郡市

人が輝き、笑顔あふれる快適緑園都市・おごおり



市内中央部を南北に貫流する宝満川を挟んで、西側に住宅地帯、東側にのどかな田園風景が広がる小郡市は、九州自動車道と大分自動車道の交差する鳥栖ジャンクションに隣接していること、市の東部に筑後小郡インターチェンジがあることから交通の要衝及び物流基地としての機能が期待されています。

また、鉄道は市域を西鉄天神大牟田線が南北に、甘木鉄道が東西に通じており、福岡市へは約30分の距離にあることから交通の便がよい都市です。

主要産業となる農業において、収穫・出荷量等は米、麦、大豆が多くなっていますが、福岡県内における収穫・出荷量の割合をみると、葉物野菜などを多く産出しています。

観光では、將軍藤や花立山など四季折々の豊かな自然や小郡官衙遺跡（国指定史跡）をはじめとした文化財など、自然資源と歴史資源が融合した都市です。

うきは市

うきはブランドを絆で結ぶ「しあわせ彩る」うきは市

北は九州一の大河「筑後川」、南は屏風山と称される美しい「耳納連山」に囲まれた“うきは市”は、久留米市の東側に接し、福岡都市圏から車で1時間にも満たない近距離にありながら、水と緑に恵まれ、風光明媚な自然環境、田園景観を今なお保っています。また、平坦部、山麓部、山間部と大変起伏に富んだ地形を有しています。



平坦部は肥沃な水田地帯で、米麦や施設園芸等のほ場が広がり、重要伝統的建造物群保存地区の「吉井の白壁の町並み」や、筑後川に堰を築き今日のそうめんの一大産地となる等、産業振興のもととなった「五庄屋の偉業」を今に伝えています。

山麓部は土壌を活かした果樹地帯で、柿・梨・桃・ぶどう・いちご等の農業が盛んで「フルーツ王国」を形成しています。山間部は棚田百選「つづら棚田」や水源の森百選「調音の滝公園」があり、森林セラピー等の自然を活かした特色ある地域づくりをしています。さらに、古墳や神社、仏閣など、歴史・文化遺産の多い地域でもあり、まさに日本の原風景がここに 있습니다。

温泉や陶器等の豊富な観光資源や田園環境を活かして、地場産業振興を図るとともに、うきはブランド振興と市民協働による絆づくりに取り組んでいます。

⑨七夕神社 ⑩夢 HANABI ⑪城山公園

⑫つづら棚田 ⑬浮羽稻荷神社 ⑭吉井の白壁の町並み

大刀洗町 わたしたちが創る 誇れるよかまち たちあらい

大刀洗町は、町民一人ひとりが、自分たちの地域に関心を持ち、住みやすい地域を自分たちが創っていくことで、地域への愛着を深め、10年後も「大刀洗町に住み続けたい。住んでよかった。」と誇れる大刀洗町の実現に向けたまちづくりに取り組んでいます。

耕地率が54%と県内市町村で最も高く、町全域に緑豊かで穏やかな田園風景が広がっています。

町の南部は、早期に農業基盤の整備が完了した優良農地であり、米、麦、大豆をはじめ、野菜やガーベラなどを各地に出荷しています。また、町の北部において工場誘致を進めており、雇用拡大と地域経済の活性化を図っています。また、町名の由来となった菊池武光の勇壮な銅像がある「大刀洗公園」や、日本に残る赤レンガ建築の中でも有数の「今村天主堂（国指定重要文化財）」、奈良時代の地方役所跡「下高橋官衙遺跡（国指定史跡）」など歴史ロマンがあふれています。大分自動車道の筑後小郡ICすぐ、福岡都心へ車で1時間以内という立地のよさから、住宅地としての開発も進んでいます。現在は、安全安心のまちづくりを進めると同時に、子育て施策やコミュニティの支援にも取り組み、豊かで活力あるまちづくりを進めています。



大木町 住み続けたいと思える 持続可能な循環のまち



大木町は、先人たちが荘園時代から築いてきた、歴史と文化の遺産である「堀(クリーク)」が町の面積の14%を占め、独特の景観と、豊かな自然環境を育んできました。この堀は肥沃な土地と豊富な水をもたらし、現在まで農業の町として発展し、県下有数の米麦地帯として知られるとともに、いちごやグリーンアスパラガス、きのこ類の生産が盛んに行われ、特にきのこ類の生産は九州有数の産地となっています。

また、堀の景観を残し、先人たちの知恵を後世に残す自然公園「石丸山公園」や、泉質・湧出量・温度ともに充実したアルカリ温泉の「天然温泉大木の湯アクアス」をはじめ、バイオマス施設に地域応援レストランや農産物直売所を併設した「道の駅おおき」などが点在し、町内外から多くの方が訪れています。

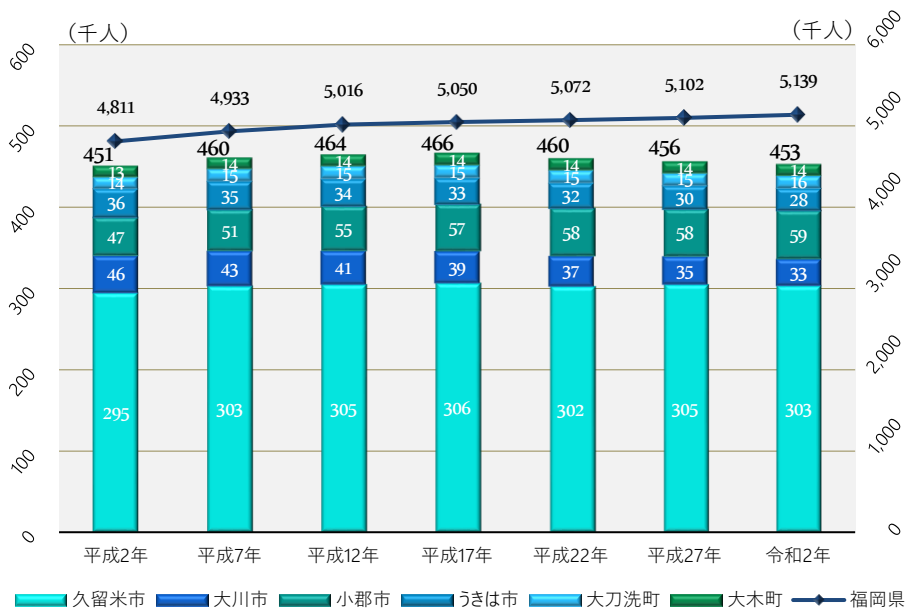
さらに、ごみの資源化や自然エネルギーの普及など、環境にやさしい資源循環型のまちづくりを進めており、平成18年には、生ごみなどのメタン発酵施設や学習施設を備えた循環センターの整備や、平成22年には、日本で2番目の「もったいない宣言（ゼロ・ウェイスト宣言）」の公表、令和元年には、「気候非常事態宣言」を表明するなど、地域住民と一体となった環境施策を展開しています。これからも、自然と人、地域が調和した、水と緑に囲まれた個性豊かな「おしゃれな農村」を目指していきます。

⑮今村天主堂 ⑯菊池武光銅像 ⑰大刀洗町の田園風景
⑱クリークの風景 ⑲おおき循環センターくるるん ⑳きのことアスパラガス

2. 圏域の人口

(1) 総人口

圏域の総人口は、平成17年をピークに減少に転じ、令和2年の国勢調査では452,986人となっており、平成27年と比べ3,210人減少しています。



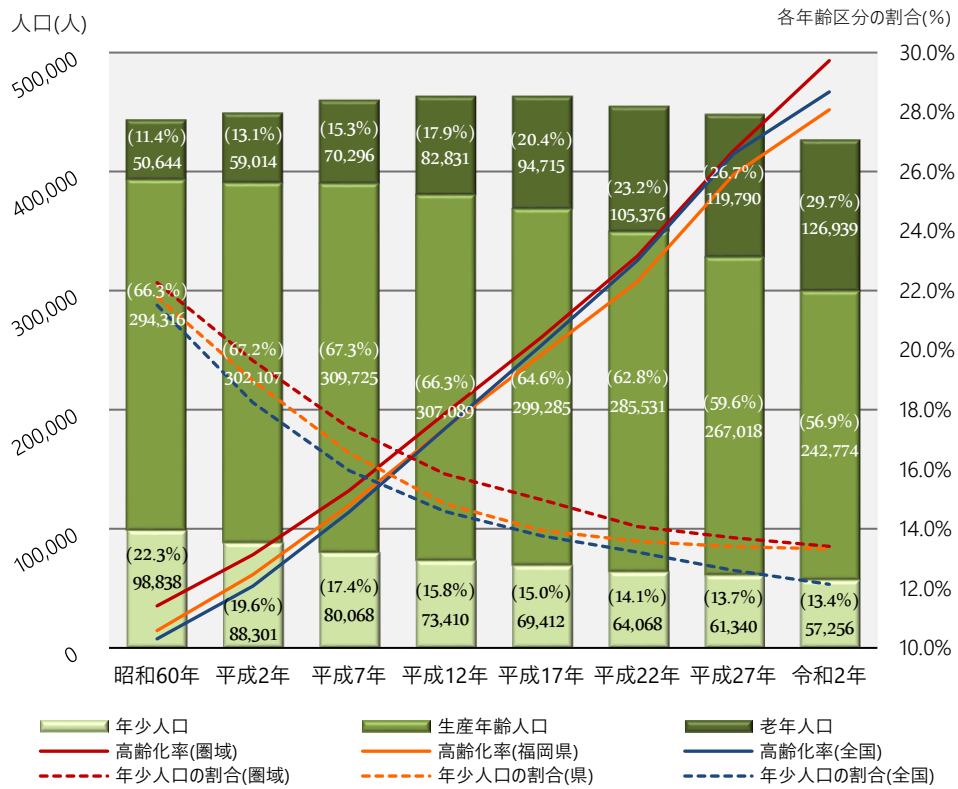
	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
久留米市	294,665	302,741	304,884	306,434	302,402	304,552	303,316
	2.1	2.7	0.7	0.5	▲ 1.3	0.7	▲ 0.4
大川市	45,704	43,341	41,338	39,213	37,448	34,838	32,988
	▲ 4.5	▲ 5.2	▲ 4.6	▲ 5.1	▲ 4.5	▲ 7.0	▲ 5.3
小郡市	47,116	50,612	54,583	57,481	58,499	57,983	59,360
	7.5	7.4	7.8	5.3	1.8	▲ 0.9	2.4
うきは市	35,910	35,179	34,045	32,902	31,640	29,509	27,981
	▲ 2.5	▲ 2.0	▲ 3.2	▲ 3.4	▲ 3.8	▲ 6.7	▲ 5.2
大刀洗町	14,098	14,755	15,227	15,400	15,284	15,138	15,521
	3.8	4.7	3.2	1.1	▲ 0.8	▲ 1.0	2.5
大木町	13,232	13,525	13,862	14,282	14,350	14,176	13,820
	0.4	2.2	2.5	3.0	0.5	▲ 1.2	▲ 2.5
圏域	450,725	460,153	463,939	465,712	459,623	456,196	452,986
	1.6	2.1	0.8	0.4	▲ 1.3	▲ 0.8	▲ 0.7
福岡県	4,811,050	4,933,393	5,015,699	5,049,908	5,071,968	5,101,556	5,135,214
	1.9	2.5	1.7	0.7	0.4	0.6	0.7
全国	123,611	125,570	126,926	127,768	128,057	127,095	126,146
	2.1	1.6	1.1	0.7	0.2	▲ 0.8	▲ 0.7

出典) 国勢調査

注) 表中、上段は人口(人、全国のみ千人)、下段は増減率(%)を表す

(2) 人口構成

全国や福岡県と同様に、老年人口（65歳以上）の増加と年少人口（0歳から14歳まで）、生産年齢人口（15歳から64歳まで）の減少が顕著です。構成する割合では、老年人口とともに年少人口が全国や福岡県よりも高い傾向が見られます。



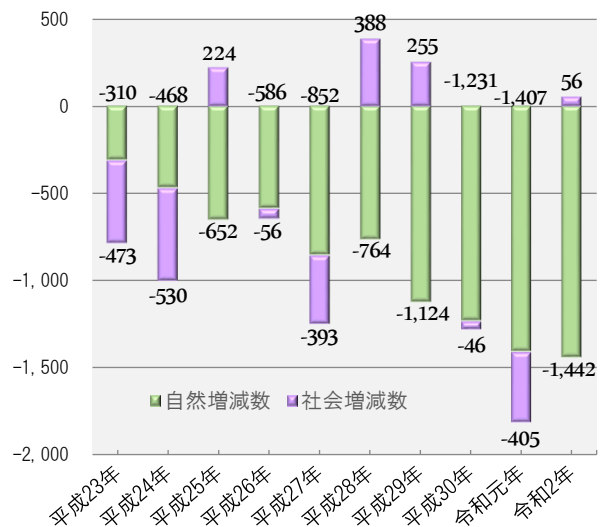
出典) 平成27年国勢調査
 注) 年齢不詳を除くため、各区分別人口の合計は総人口と一致しない
 注) 四捨五入により構成比計が100%とならない場合がある

(3) 人口動態

① 自然動態と社会動態

自然動態は、死亡数が出生数を上回る状況が拡大しています。

社会動態では、転入超過と転出超過が入れ替わる状況が続いており、令和2年には転入超過に転じています。

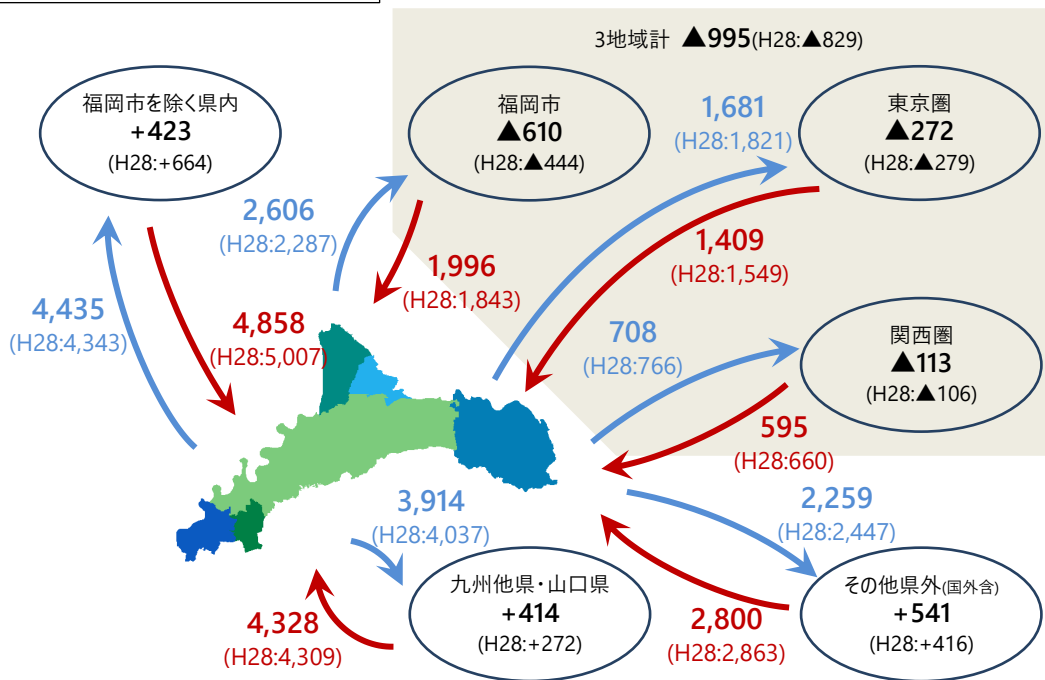


出典) 福岡県の人口と世帯年報（平成23年～令和2年）
 注) 前年10月から当年9月までの住民基本台帳移動数による

②転出入の状況 (令和元年10月～令和2年9月/単位:人)

大都市圏に対し、転出超過の状況が続いています。新型コロナウイルス感染症の影響が推測される令和2年と平成28年の比較では、全体では転入・転出ともに縮小していますが、福岡市に対しては、転入数の増加とそれを上回る転出数の増加の傾向が見られます。

総数：+383 (H28:+523)
 転入：15,986 (H28:16,231)
 転出：15,603 (H28:15,708)



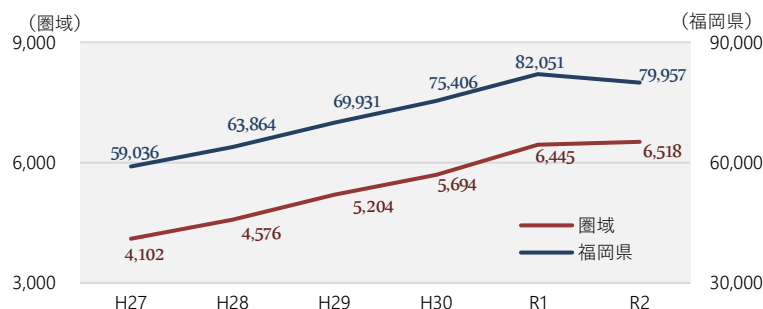
出典) 福岡県の人口と世帯年報 (平成28年・令和2年)

注) 転出先・転入元不明者及び職権消除・職権記載者を除くため、合計値は①の社会増減数と一致しない

注) 「東京圏」は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、「関西圏」は京都府、大阪府、兵庫県、奈良県を指す

(4) 外国人住民数の推移 (人)

毎年増加傾向にあり、平成27年度末から令和2年度末では58.9%の増加となっています。なお、新型コロナウイルス感染症の影響が推測される令和2年度末においては、県全体では減少に転じているものの、圏域では微増となっています。



出典) 福岡県住民基本台帳月報 (各年度末日)